

5月2日「キリストという道」ヨハネ福音書14：1～11

相対化の時代だと呼ばれるようになりました。科学が凄いスピードで発展し、どんどん新しい技術やモノが生まれていきます。インターネットを通して、世界中の様々なモノが繋がり、多種多様な考え方や価値観が世界中から発信されます。これまで目を留められることがなかった多様な価値観や立場の人たちに皆が気付いていくことは本当に素晴らしいことです！それらと出会い、認め合い、自分たち自身が変わられていくことも良いことです。そうすると、一昔前のように、一つの絶対的に正しい価値あるモノがあり、それを学校や先生が一方的に教えてくれる、という時代ではなくなったようです。「答えのない問いに取り組もう！」何年前の母校のキャッチコピーでしたが、素晴らしいと思いました。学校での学びがテストの正解を探すものではなく、明確な解答がない問題に根気強く取り組むというものに変わってきたということです。

それは同時に教会にはある種の危機の時代が訪れたことを意味します。キリスト教会は、長い間、ここに真理があり、世俗とは一線を画した、唯一絶対の価値があると主張してきました。今、聖書研究祈祷会では、出エジプトの「十戒」を読んでいます。第一戒「あなたにはわたしをおいて**他に神があってはならない**」とあります。キリスト教はこの世界には聖書に現された唯一の神のみで他の信仰は認めない、と主張し続けてきたのです。けれども、何事も相対的に比較される時代には、教会の絶対性は崩れていきます。カトリックのローマ法王でさえも、他宗教との対話を語る時代です。キリスト教に限らず仏教やイスラム教な伝統的な宗教が他の新興宗教やカルト宗教と一緒に「宗教」と一線に並べられてしまいます。第二次世界大戦後のキリスト教ブームの時代のように、新しい時代を生き抜く絶対の価値観、唯一の真理を求めて、人々が教会の扉を叩くことが無くなりました。「求めなさい、そうすれば与えられる。探しなさい、そうすれば見つかる、門をたたきなさい、そうすれば開かれる。」とは過去のこと、今は、「スマホを開きなさい、そうすればすぐ見つかる」のです。いつでも、どこでも、誰にでも、欲しいものが見つかる時代になりました。

そんな今日、私たちはイエスのこんな言葉を聴きました。「わたしは道で

あり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。」イエスは言うのです。神さまのもとへとたどり着くにはイエスという唯一絶対の道を通るしかない！というのです。この相対化の時代に、「唯一の道」なんて言い方をしてしまえば「なんて偏狭な考え！」引かれてしまいます。この言葉をどう聞けば良いのだろうか・・・と私は長い間考え込んでいました。

そのことについて、この1年間でずいぶん考えを改めさせられました。一つは少年院で教誨師として働くようになったことです。先日、ある母親からネグレクトを受け続けた少女から個人教誨を依頼された時のことです。彼女にこう尋ねられました。「私は暴力を振るわれても仕方のない人っていると思う。私の母は私をずっとネグレクトしてきた。そのことで私はずっと傷ついてきたのに、私が非行に走ったとたん、皆が私だけを責めて、母親を庇う。なんで私だけ！？私はこの怒りをどうすれば良いのか分からないのです。」私は難しいなと感じながらこう諭しました。「世の中には正当な怒りがある、あなたの怒りは至極真っ当なもので、怒って良いと思う。でも怒って良いことと、あなたが他者に暴力を振るうことは別です。暴力を振るわれて良い人間なんていないし、あなたの怒りは正しいけれど、それで誰かに暴力を振るうのなら、あなたの怒りから正当性はなくなるんだよ。」非行に走った少女たちには成育歴や、抱えている精神的な課題の上で、同情すべき面があり、癒されなければならない傷がある。彼女たちの存在は肯定され、愛されなければなりません。しかし、だからと言ってブレてはならない面もある。彼女たちが犯したことは絶対に過ちであり、繰り返してはならないのだ。曖昧にしてはならない「正しさ」は存在すると彼女たちと関りながら思われます。

もう一つは私たちが今も経験しているコロナ禍という事態です。最近、RADWIMPS という人気バンドのヴォーカル野田洋次郎氏がこんな投稿をして話題になっています。「ここ1年間の考察や反省や説明が何もない状態で3回目の緊急事態宣言なんて聞く気になれねえという気持ちにどこかなる。ウイルスの封じ込めに成功した国となぜここまで差がついたのか、

説明もない。明確な数値目標もない。僕自身何が正解かなんてわかりません『正しさ』が日々変化し続ける状況の中、共に考え前に進んでいきたいと思えます。疑問を放置せず、この困難を共に生き抜きたいと願っています。」最近のもやもやを言葉にしてもらった気がしました。私たちは、多様な価値観や情報に溢れた社会に生きていて、唯一絶対の「答え」は見つかり辛い世界に生きています。でも正解はあります。一つではなくとも複数の正解はある。少なくとも例えばコロナ禍ということを挙げれば、失敗と成功ははっきりしているわけで、私たちの国は明らかに失敗しているのです。コロナの対策でうまくいっている国は何を一番にしたのか？経済か？オリンピックか？いや、科学的な論拠を明確にして、国民一人一人の命を守ることを最も大切にしたはずです！

今年は選挙の年です。コロナ禍のなかで地方も国もたくさんの選挙が行われていますが軒並み過去最低の投票率となっていることに愕然としています。政治が私たちの生活に直結することがまざまざと見せつけられた1年であったのに・・・と思うのです。私たちは価値の相対化、「答えがない」ことに甘えて、物事を検証したり、正解を追い求めたり、真理を追究する姿勢そのものを失っているのではないのでしょうか？

今日の物語ではトマスがイエスに尋ねています。「主よ、どこへ行かれるのか、わたしたちには分かりません。どうして、その道を知ることができるのでしょうか？」私たちは溢れかえる価値観や情報のなかで、どの道を選べば良いのか、迷子になってしまっています。挙句の果てに行きついた答えは「正解はない」というものだ。正しさなんてない。皆が間違っていて、皆が正しい。何事も白黒つけなくて良い。大抵の事象については賛成と反対の意見の両論を併記することで無難に過ごすようになりました。曖昧さのなかで正しいのはいつも多数派になりました。社会の中で誰も責任を取らないから、諦め、失望し、利権と自分の周りだけが良ければ良いそんな社会に成り下がっていつているように私には思えて仕方ないのです。

けれども、今日の聖書の言葉は私たちに唯一絶対の価値はあると伝えます、真理はある。イエス・キリストが道であり、真理であり、命なのです。

イエスの真理とは何か？イエスは今日の物語の直前に、十字架での処刑を目の前に控えて、弟子たちの足を洗ってこう言われました。「**あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。**」神は私たちを愛されている。だから、私たちも互いに愛し合って生きていく。これは唯一普遍の真理だろう！何千年経とうと、時代が移ろうと、どんな新しい技術が生み出されようと決して変わることがない真理だろう！これに勝るものはないはずだ！真理はあるし、正解はある。そして、私たちにはキリストという道を通して、確かにそれが与えられているのです！

神戸の教会に居た時に中高生を連れてイスラム寺院を訪ねたことがありました。ちょうどイスラム原理主義によるテロが盛んに言われている時期だったので、参加者の高校生が、そのことを訪ねたら、イスラムの代表の方はこう言われました。「十戒にこうあります『殺してはならない』この神の戒めを破る以上、彼らはどれほどイスラムの皮をかぶってイスラムのふりをしていても、本物のイスラムではありません。」真理はあるのです！

今、愛光保育園では保育の見直しに取り組んでいます。保育や教育にも流行りがあって、新しい理論やモデルが登場します。でも、決して変わらないことがあります。子どもたち一人一人を大切に愛して育てるということだ！真理はあるのです！

私たちは非常に難しい現代を生きている。でも、私たちには真理がある。ブレない、唯一の道がある。このことは、私たちにとってどれほど大きなことだろうか。その恵みは計り知れない。このキリストという道と一緒に歩んで行きましょう。